

井手やまぶき相談・支援センターだより 1月号

京都府立井手やまぶき支援学校
井手やまぶき相談・支援センター



新しい年が始まり、寒さの中にも春の兆しが見え始めています。今年も地域の皆さまの、笑顔あふれる毎日のお力になれるよう、温かなつながりを大切にしていきたいと思います。一年のまとめを迎えるこの時期は、新しい生活への期待とともに、不安な気持ちが大きくなることがあります。特に発達障害のあるお子さんは、環境の変化で気持ちのコントロールが難しくなることがあります。安心して新年度を迎えることができるよう、見通しがもてるサポートを心掛けていきたいですね。

冬の研修会

12月22日（月）、冬の研修会を開催しました。今回も四條畷学園大学の作業療法士（OT）宮嶋愛弓先生をお招きし、毎年御好評いただいているセッション形式の研修に加え、ミニ講義もしていただきました。

作業療法士は、子どもが日々の生活の中で『自分らしく』『楽しく』過ごせるように支援する専門職です。遊び、食事、着替え、集団生活など、子どもにとって大切な“作業”をとおして発達をサポートします。

研修会では、作業療法の基本的な考え方から、実際のセッションをとおして、お子様の興味・関心に合わせたアプローチや支援方法について学びました。参加者からは『個人に合わせたカリキュラムや、無理のない、達成感がもてる活動を取り入れながら援助していきたいと改めて思いました』などの感想が寄せられました。



R7年度 やまぶき特別支援連携協議会

今年度も、井手やまぶき相談・支援センターが事務局となり、行政（就学前）、医療、保健、福祉・労働、教育の各機関が連携し、特別な支援を必要とするすべての幼児・児童・生徒に対する特別支援教育を総合的に推進するため、やまぶき特別支援連携協議会を開催しました。

今回は福祉との連携に焦点を当て、京都府発達障害者支援センターはばたき センター長 渡邊由佳様より『京都府発達障害者支援について』というテーマで御講演いただきました。

教育関係からは「福祉と教育の連携がなかなか進まない。子どもを中心に考えれば、垣根はそれほど高くないはず」「学校教育のみならず、社会全体に特別支援の視点が必要」という意見、行政からは「インクルーシブ教育の難しさを感じている。誰一人取り残さない教育とは何か」という意見、福祉からは「教育と福祉でお互いの見える関係づくり、共同で学べる場を」「学校に支援を求めるることは保護者にとってまだハードルが高い」という意見が出されました。

最後に、当センターの外部相談員であり本協議会副会長の奈良教育大学 全有耳医師からは「着実に地域の支援が進んでいることは確認できたが、まだまだ課題も多い。発達障害の子どもたちは環境との相互作用の中で、支援の必要が増している」とのお話をいただきました。

支援を必要とする子どもたちや先生方、保護者の方々が増えている中、どのように関係機関と連携していくのか、その橋渡しを地域支援センターが担っていかなければと考えています。

